

## 令和5年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

### 県南会場

#### 科目 ⑤児童期（6歳～12歳）の生活と発達

- ◆ 児童期における発達の特徴を把握するための理論等を深く学ぶことができました。心理学者ピアジェの認知発達論からは児童期は具体的な物事を論理的に考えられるようになりますが、年齢に応じた援助が大切であり、エリクソンの生涯発達理論からは児童期は勤勉性と劣等感との葛藤を経験する中でどういった援助をすると有能感を得られるのか等を考えながら接していかなければいけないと思いました。
- ◆ 普段使い慣れない言葉が多く、少し緊張しましたが、年齢に応じた援助を行うためには発達段階を理解しなければなりません。勤勉性と劣等感という発達課題があり、これらを経験させた上で、有能感（やればできる）を獲得するような援助をしていきたいです。子どもから学ぶこともたくさんあるので、しっかり向き合っていきたいです。
- ◆ 発達心理学の観点から児童期の生活と発達に関する理論を学び、私には少し難しかったですが、人の心がどのような原理で働いているのか興味深い点もありました。放課後児童クラブは学校とは違う空間であることが望ましいと思います。子ども一人一人がのびのびでき、心の拠り所にすることができるように優しく向き合い関わりながら支援に努めたいです。
- ◆ 本科目では、発達段階と児童期の発達に関する理論として、Bronfenbrennerの生態学的システム理論、エリクソンのライフサイクル論、ピアジェの認知発達理論を学びました。子どもは直接関わる人間関係だけでなく、間接的に関わってくる様々な環境に影響を受けながら経験し、考え、年齢により発達することが分かりました。それを理解した上で、目の前の子どもに合った言葉かけや支援ができたらいいと思いました。
- ◆ 児童期には、成功と失敗を繰り返して成長していきますが、物事の判断が困難なときは私たちが少しでも克服するための支援ができたらいいと思いました。そして、「できた」「成功した」という自信に繋がればよいと考えました。1年生から6年生まで発達の特徴が違うので、段階に合わせた声かけなどをするように心がけたいと感じました。